

マルチコントロール オーディオマスター

取り付けと接続

お買い上げいただきありがとうございます。

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

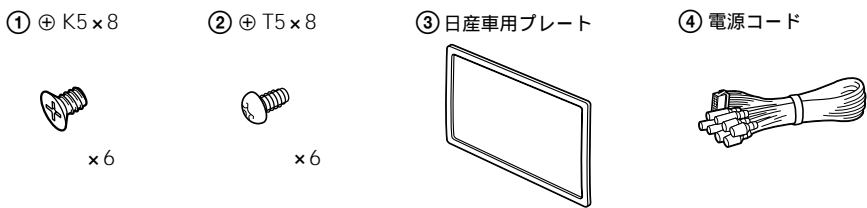
この「取り付けと接続」および別冊の取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。この「取り付けと接続」および別冊の取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

取り付けはお買い上げ店に依頼する
本機の取り付けは車種や年式により異なり、専門知識が必要です。万一、ご自分で取り付けるときは、この「取り付けと接続」に従って、正しく取り付けてください。正しい取り付けをしないと、火災や感電または自動車の損傷の原因となります。

WX-500MDX

Sony Corporation © 2000 Printed in Japan

取り付け部品の確認(付属品)



この「取り付けと接続」に記載されている取り付け、接続先の機器はすべて別売品です。ただし、付属品は除きます。

ソニーFAXインフォメーションサービスのご案内(FAX付電話でご利用になれます)

カーフィッティングFAXサービス 車種メーカー、車種・車種形式別のカーオーディオ部の取り外し方法、各種センサー位置等の資料

- ①インデックスの入手/03-3552-7209 車種メーカー別のBOX番号を受信
- ②資料請求/03-3552-7488 アナウンスに従いご希望の車種の該当BOX番号を入力してください。

24時間
お手元のFAXで
資料が取り出せます

- ソニーFAXインフォメーションサービスをご利用の際のインデックス入手料・資料請求は通話料のみお客様のご負担となります。またFAXの機能によっては受信できない場合があります。
- FAXサービスのメンテナンス日は 毎月第2木曜日 午前8:00~午後11:00となっております。ご迷惑をおかけしますが、当日前記時間帯は資料を取り出すことはできません。ご了承ください。(第2木曜日が祭日の場合は前日の水曜日をメンテナンス日とさせていただきます。)

ソニー株式会社
〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35
お問い合わせはお客ご相談センターへ
●ナビダイヤル……………0570-00-3311
(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)
●携帯電話・PHSでのご利用は…03-5448-3311
●Fax……………0466-31-2595
受付時間:月~金 9:00~20:00、土・日・祝日 9:00~17:00

保証期間中の操作や取り付け・接続、故障に関するお問い合わせは
テクニカルインフォメーションセンターへ
(モバイルエレクトロニクス専用)
0120-64-0131(フリーダイヤル)

この説明書は再生紙を使用しています。



警告 安全のために

警告表示の意味

取り付けと接続および取扱説明書、製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

- 警告** この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。
- 注意** この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

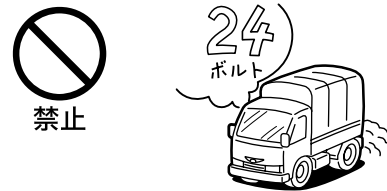


行為を禁止する記号



下記の注意を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

本機はDC12Vマイナスアース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24V車で使用すると火災などの原因となります。

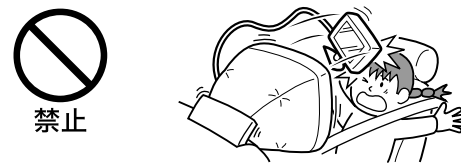


ステアリングやブレーキ系統、タンクなどにある車の性能を維持するための部品を使わない

車体のボルトやナットを利用するとき、ステアリングやブレーキ系統、タンクなどの部品を使うと、制動不能や火災の原因となります。

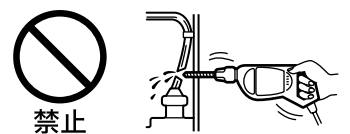
助手席用エアバッグシステムの動作を妨げないように取り付ける

動作の妨げになる場所に取り付けると、エアバッグが正常に動かず、けがの原因となります。



パイプ類、タンク、電気配線などを傷つけない

火災の原因となります。車体に穴を開けて取り付けるときは、パイプ類、タンク電気配線などの位置を確認してください。



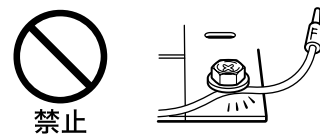
雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

運転操作や車体の可動部を妨げないように取り付ける

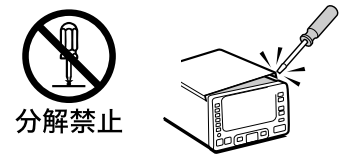
運転の妨げになる場所、車体の可動部の妨げになる場所に取り付けや配線をする、事故や感電、火災の原因となります。

- ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。
- コード類はまとめる。
- ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。



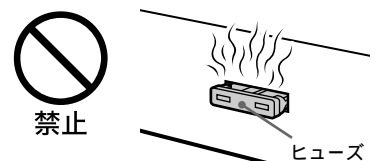
分解や改造をしない

火災や感電、事故の原因となります。電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源を取ると、リード線の電流容量を超えてしまいます。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



規定容量のヒューズを使う

ヒューズを交換するときは、必ずヒューズに記された規定容量のアンペア数のものをお使いください。規定容量を超えるヒューズを使うと、火災の原因となります。



取り付け、接続作業をするときは、必ずイグニッションキーをOFFにするか、キーを抜いておく

イグニッションキーをONにしたまま作業をすると、バッテリーあがりや、ショートによりヒューズ飛びや発煙などの危険があります。



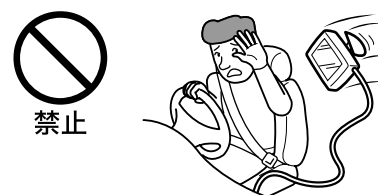
注意 下記の注意を守らないと**けが**をしたり**自動車に損害**を与えたりすることがあります。

付属の部品で正しく取り付ける

他の部品を使うと、機器の内部を傷つける、しっかり固定できないなどで、火災やけがの原因となることがあります。

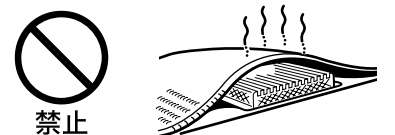
安定した場所に取り付ける

振動の多いところや、天井などに取り付けると、製品が動く、落ちるなどにより、事故やけがの原因となることがあります。



本機の通風口や放熱板をふさがない

通気口や放熱板などをふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



アンテナは車体からはみ出さないよう取り付ける

歩行者などに接触し、事故の原因となることがあります。



1 接続

必ず接続先の機器に付属の説明書もあわせてご覧ください。

(別売り品の仕様についてはカタログをご覧ください。お買い上げ店にご相談ください。)

ショート事故を防ぐために

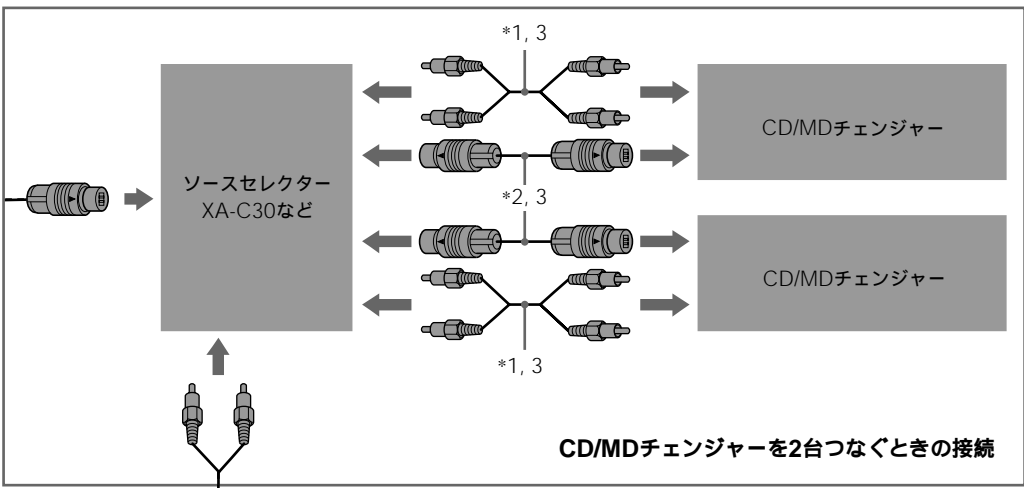
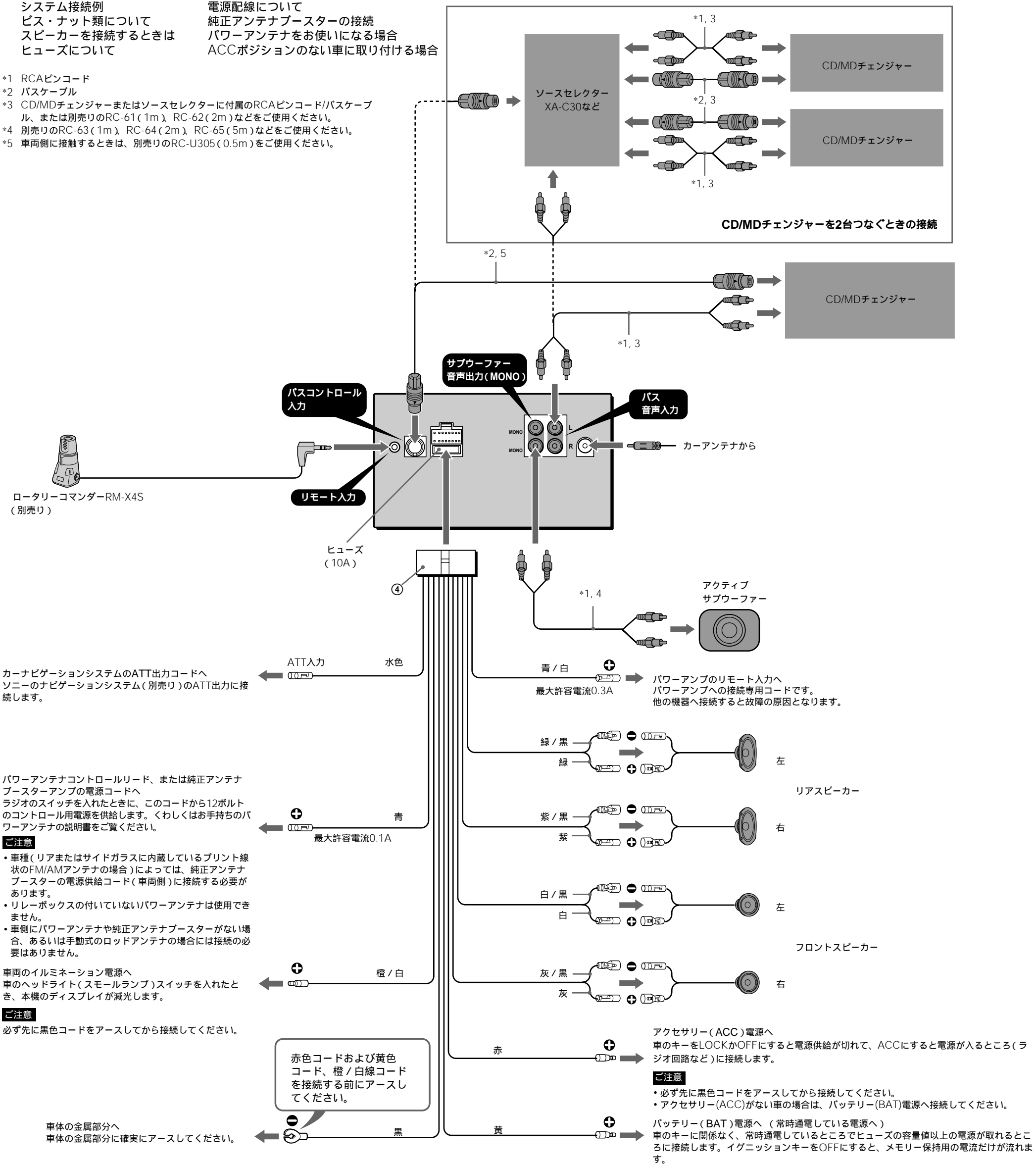
本機の電源コードの接続は、必ずイグニッションキーをOFFにして、すべての配線をすませてから行ってください。先に電源コードを接続すると、ショートにより感電や製品の破損の原因になります。

裏面の「システム接続例」、「ご注意」も合わせてご覧ください。

システム接続例
ビス・ナット類について
スピーカーを接続するときは
ヒューズについて

電源配線について
純正アンテナプスターの接続
パワーアンテナをお使いになる場合
ACCポジションのない車に取り付ける場合

- *1 RCAピンコード
- *2 バスケーブル
- *3 CD/MDチェンジャーまたはソースセレクターに付属のRCAピンコード/バスケーブル、または別売りのRC-61(1m)、RC-62(2m)などをご使用ください。
- *4 別売りのRC-63(1m)、RC-64(2m)、RC-65(5m)などをご使用ください。
- *5 車両側に接触するときは、別売りのRC-U305(0.5m)をご使用ください。



ロータリーコマンドーRM-X4S
(別売り)

カーナビゲーションシステムのATT出力コードへ
ソニーのナビゲーションシステム(別売り)のATT出力に接続します。

パワーアンテナコントロールリード、または純正アンテナプスターの電源コードへ
ラジオのスイッチを入れたときに、このコードから12ボルトのコントロール用電源を供給します。くわしくはお手持ちのパワーアンテナの説明書をご覧ください。

ご注意

- 車種(リアまたはサイドガラスに内蔵しているプリント線状のFM/AMアンテナの場合)によっては、純正アンテナプスターの電源供給コード(車両側)に接続する必要があります。
- リレーボックスの付いていないパワーアンテナは使用できません。
- 車側にパワーアンテナや純正アンテナプスターがない場合、あるいは手動式のロッドアンテナの場合には接続の必要はありません。

車両のイルミネーション電源へ
車のヘッドライト(スモールランプ)スイッチを入れたとき、本機のディスプレイが減光します。

ご注意

必ず先に黒色コードをアースしてから接続してください。

赤色コードおよび黄色コード、
橙/白線コードを接続する前にアースしてください。

車体の金属部分へ
車体の金属部分に確実にアースしてください。

アクセサリ(ACC)電源へ
車のキーをLOCKかOFFにすると電源供給が切れて、ACCにすると電源が入るところ(ラジオ回路など)に接続します。

ご注意

- 必ず先に黒色コードをアースしてから接続してください。
- アクセサリ(ACC)がない車の場合は、バッテリー(BAT)電源へ接続してください。

バッテリー(BAT)電源へ(常時通電している電源へ)
車のキーに関係なく、常時通電しているところでヒューズの容量値以上の電源が取れるところに接続します。イグニッションキーをOFFにすると、メモリー保持用の電流だけが流れます。

ご注意

- 本機の黄色コード(バッテリー電源入力コード)を接続する前に、本機のヒューズ容量が車両側のヒューズ容量(ラジオまたはオーディオ電源)以下であることを確認してください。判断が難しい場合はお買い上げ店にご相談ください。
- また、アンプなどを接続したシステムで使用する場合は、総ヒューズ容量が車両側のヒューズ容量以下であることを確認してください。もし車両側の容量が小さい場合はバッテリーから直接電源を引いてください。このことを確認しないと異常が生じた時、車両のヒューズが先に切れ、他の機器が機能しなくなります。
- 必ず先に黒色コードをアースしてから接続してください。

2 本体を取り付ける

取り付け場所

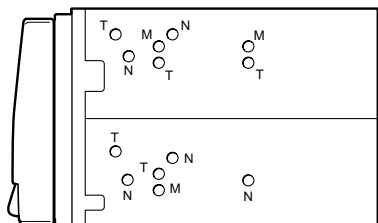
- こんな取り付け場所はお避けください。
- 運転の妨げになる所
 - 同乗者の安全を損なう所
 - グローブボックスのふたの開閉や、灰皿の出し入れの妨げになる所
 - ほこりの多い所
 - 磁気を帯びた所
 - 直射日光やヒーターの熱風などが当たる所
 - 雨が吹き込んだり、水がかかる所、湿気の多い所

センターコンソールやインダッシュに取り付ける

トヨタ車、日産車、三菱車のほとんどは純正カーオーディオを外して、そのあとに本機を取り付けられます。取り付け可能車はお買い上げ店にお問い合わせください。お車上記以外のときは、別売りの取り付けキットが必要です。お買い上げ店にご相談ください。

ご注意

- 水平から+20度以内で取り付けてください。20度以上傾けて取り付けると、CDやMDの音飛びなどの原因となります。
- 純正ブラケットを本機に取り付けるとき、本機側面に刻印されているT(トヨタ車用)、M(三菱車用)、N(日産車用)マークにブラケットの取り付けネジ穴を合わせて、付属のネジ①または②で取り付けてください。



1

純正カーオーディオを取り外す。

センターコンソールやインダッシュから純正オーディオを取り外します。(取り外しかたがわからない場合は、この「取り付けと接続」表面に記載されているソニーFAXインフォメーションサービスなどをご利用ください。)

2

本機を取り付ける。

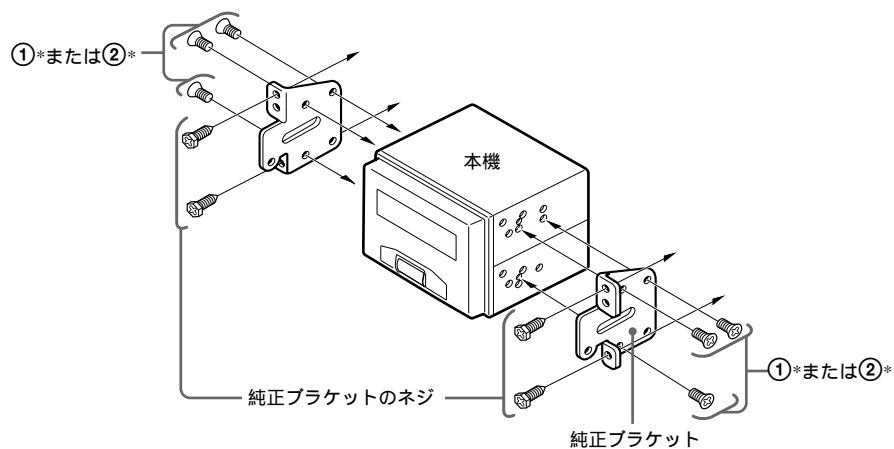
カーオーディオを取り付けていた純正ブラケットを利用して、本機を取り付けます。

ご注意

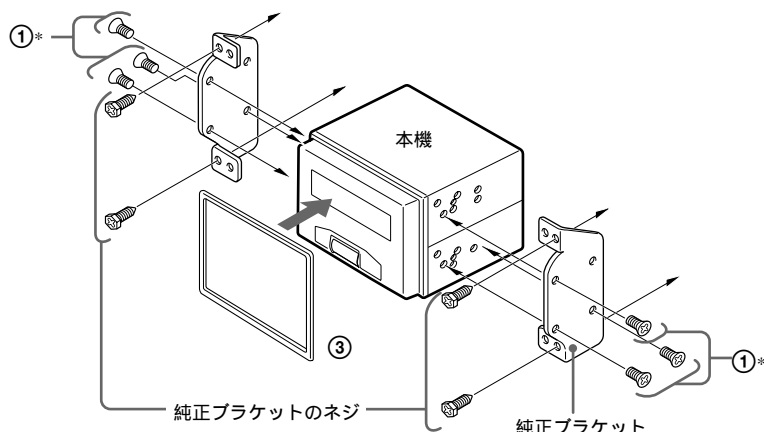
- 本機のフロントパネル部の表示窓を押したり、ボタンに強い力を加えたりしないでください。
- 本機の上部に物をはさみ込まないでください。

トヨタ車/三菱車の場合(イラストはトヨタ車の場合)

①と②のネジは取り付け車両により使い分けてください。
三菱車に本機を取り付ける場合は、②のネジをご使用ください。



日産車の場合



* 付属の皿ネジ①またはトラスネジ②で取り付けてください。他のネジを使用すると故障の原因となります。
また、車両側の純正ブラケットを通さず、本体に直接ネジを締め付けると故障の原因になります。

3 取り付けと接続が終わったら

1

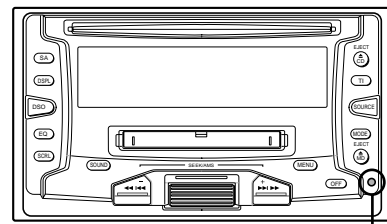
ブレーキランプやライト、ホーン、ウィンカー、ワイパーなど、すべての電装品が正しく動くことを確認する。

2

リセットボタンをつまようじの先などで押す。

ご注意

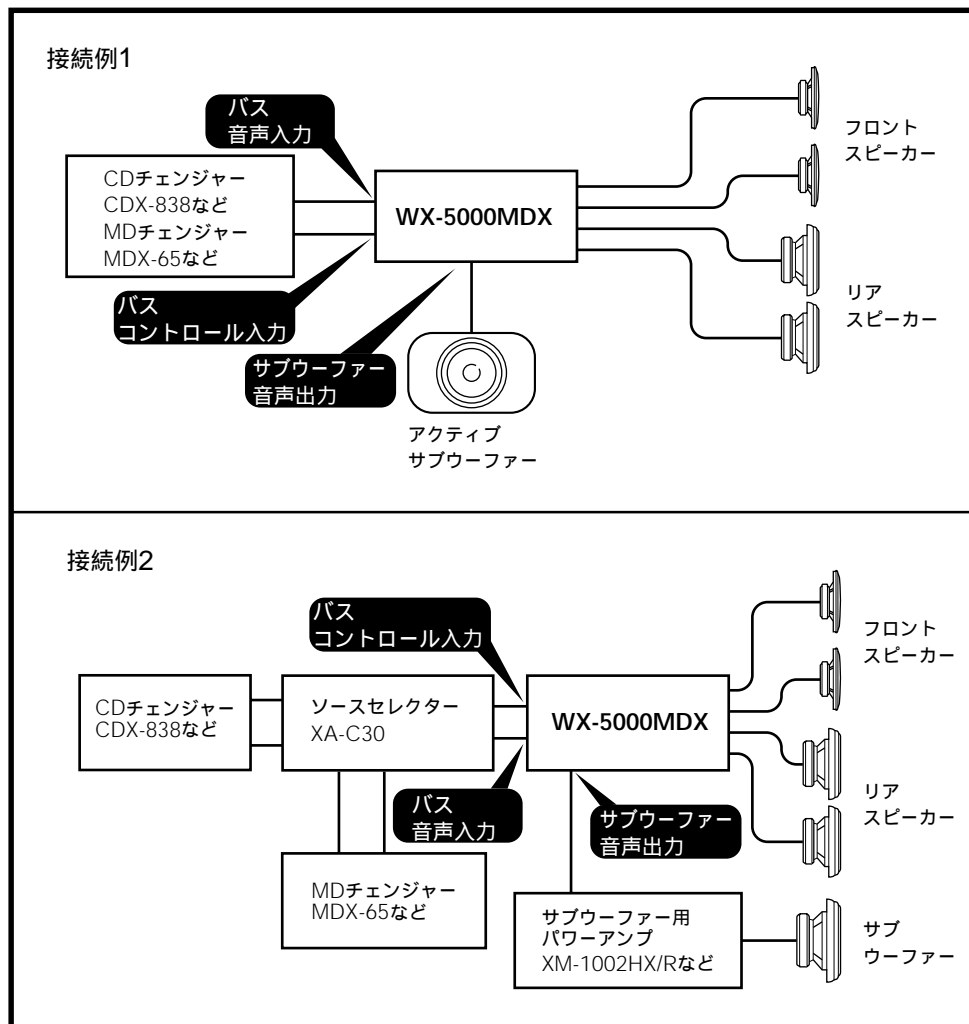
- 針のようなもので強く押すと故障の原因となります。
- リセットボタンを押してから10秒間はCDおよびMDを入れないでください。リセットされないことがあります。その場合は、もう一度リセットボタンを押してください。



リセットボタン

システム接続例

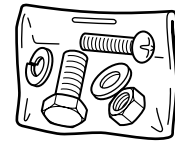
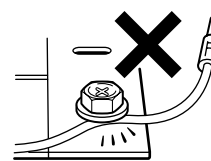
2台以上のチェンジャーを接続する場合、別売りのソースセクターXA-C30が必要です。



ご注意

ビス・ナット類について

- 必ず付属のビス類をお使いください。
- ビスやナットを締めるとき、他の配線を噛みこまないようにご注意ください。
- 車体のボルトやナットを使って共締めやアースをするとき、ハンドルやブレーキ系統のものは絶対に使わないでください。
- 外したビス類は、小箱や袋に入れて紛失しないようにしてください。
- 外すビスの種類が多いときは、混同しないようにしてください。



スピーカーを接続するときは

次のことをお守りください。スピーカーの故障や破損の原因になります。

- スピーカーを接続する前に、必ず本機の電源をOFFにする。
- インピーダンス4~8Ωのスピーカーを使う。
- 十分な許容入力を持つスピーカーを使う。
- スピーカーの⊕、⊖端子を車のシャーシなどに接続しない。
- 本機のスピーカーコードどうし(特に⊕端子どうし、⊖端子どうし)を接続しない。
- 既設の純正スピーカーコードを使う場合、左右のスピーカーコードの⊖側が共通になっているものは使わない。
- 本機のスピーカーコードにスピーカーを接続しない場合は、コードには何も接続しない。
- 本機のスピーカーコードにアクティブスピーカー(アンプ内蔵スピーカー)を接続すると、本機を破損するおそれがあります。アクティブスピーカーの使用を避け、通常のスピーカーをお使いください。
- トヨタ車や三菱車、日産車にはトレードインスピーカーがあります。くわしくはお買い上げ店にご相談ください。

ヒューズについて

- 本体の後面にあるヒューズが切れたときは、配線などをチェックして必ず原因を確かめ、適切な処置をしてください。その後、ヒューズに記してある規定容量(アンペア数)のヒューズと交換してください。規定容量以上のヒューズや針金で代用することは大変危険です。
- 本機の黄色コード(バッテリー電源入力コード)を接続する前に、本機のヒューズ容量が車両側のヒューズ容量(ラジオまたはオーディオ電源)以下であることを確認してください。判断が難しい場合は、お買い上げ店にご相談ください。

電源配線について

車種によっては、車両側の配線が細い(電流容量不足)ため、エンジンアイドリング時にライトやエアコンを動作させると、正常に動作しないことがあります。この場合は、別売りの電源コードRC-39を使って電源配線することをおすすめします。

純正アンテナブースターの接続

車種(リアまたはサイドガラスに内蔵しているプリント線状のFM/AMアンテナの場合)によっては、純正アンテナブースターに電源供給コード(車両側)に接続する必要があります。この場合はパワーアンテナコントロールコード(青色)または、アクセサリ電源(赤色)を接続してください。くわしくは、お買い上げ店にご相談ください。

パワーアンテナをお使いになる場合

本機裏面から出ている青色コードをパワーアンテナ(リレーボックス付き)に接続してお使いになると、次のようなときにパワーアンテナが自動的に出ます。

- SOURCEボタンを押してラジオ受信にしたとき
- TIボタンを押して道路交通情報を受信させたとき

ACCポジションのない車に取り付ける場合

お車を離れる場合は、必ず本機のOFFボタンを2秒以上押して時計表示が消えたことを確認してください。

OFFボタンを短く押しても、時計表示が消えずにバッテリー上がりの原因となります。またこの場合、赤色の電源コードは黄色のコードと同じところ(バッテリー電源)へ接続してください。